

柏の景気情報（平成19年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年2月分）

○ 調査期間 : 平成19年2月19日 ~ 2月22日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	70	70.7%
建設	17	15	88.2%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	40	26	65.0%
サービス	19	11	57.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【19年2月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIが▲25.7と▲10.5ポイント悪化、平成15年11月から40ヶ月ぶりの水準に ▶

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.7(前月水準▲15.2)となり、マイナスが▲10.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲22.2(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.4(同▲13.7)、建設業▲20.0(同▲15.3)、サービス業▲9.0(同▲8.3)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲24.7ポイントと大幅に拡大した。横這いの製造業以外の全業種で悪化した。

【建設業】では、「柏市内は多種多様の建設会社が参入」(土木建築)、「発注件数は多いが予算と仕入単価のバランスが悪く利益率低下」(土木建築)との厳しい声が寄せられた。「年度末後の受注が伸び悩んでいる」(土木建築)、「年度明けの受注が少なく業況悪化」(造園)、「今は人員確保をしなければならないが、年度明けは過剰となる」(造園)と年度明けは更に厳しいとの声が寄せられた。「例年より暖かいので季節対応が早くなっている」(造園)との暖冬に関する声が寄せられた。

【製造業】では、「レンタルハウスは好調を維持」(金属製品製造)、「前年比104%で暖冬だが好調」(飲料製造)、「原油価格が落ち着いてきたので原材料価格値下げに期待」(ゴム製品製造)、「海外売上は2ケタ伸びたが、国内は減少し先行き不透明」(小型モーター製造)、「売上減少にありユーザーの在庫調整が厳しい」(鉄粉製造)との声が寄せられた。

【卸・小売業】では、暖冬の影響として「果実は単価高、野菜は入荷前年並み単価安」(食料卸売)、「コート売れ残る」(学生衣料小売)、「冬物商品が売れず収支回復を遅らせている」(ガソリンスタンド)、「LPガスの販売量が減少。仕入は高値安定」(燃料小売)、「冬物には暖かく、春物には寒い陽気」(各種小売)との声が寄せられた。「3/12オープンのおおたかの森SCの影響が懸念」(各種小売)、「おおたかの森SCのオープンは青果物の流通変化に合わせて情報を多く収集し、今後の対応に結び付けたい」(食料卸売)、「大型店、チェーンの飲食店・居酒屋が繁盛するほど、地元の商店や店が衰退」(食料卸売)との大型店出店に関する声が寄せられた。「衣料が不振。順調だった食品に陰りで昨割れ状況。住居関連のみ昨比クリア。好調のゲーム機にも勢いはなくなりつつある」(各種小売)、「人材が不足している」(飲食料品小売)、「昨年からCO中毒が多発。メーカーが足を引っ張っている」(燃料小売)、「売上・入店客数とも低調、バレンタイン商戦でも大きな盛り上がりは見られず。婦人服はカジュアル商材が不振、レストラン街は東急ハンズ導入に向け、リニューアル休業中の店舗が多数あり売上低迷。昨年より営業日数が1日増、土曜日1日増のプラス要因があるものの前年を下回る」(各種小売)との厳しい声が寄せられた。「緩やかな金利利上げによる消費刺激効果を期待」(書籍小売)との声が寄せられた。「事務・文具・学用品は、卒園・卒業記念品・町会・子ども会行事等で好調。その他入学用品も好調」(学生衣料小売)、「軽衣料を中心とした春物商品・新入学・新社会人の需要に期待」(各種小売)との期待する明るい声が寄せられた。

【サービス業】では、「大人数のお客様が多く忙しかった」(レストラン)、「大・小規模飲食店が減り、中規模飲食店が増えて効率化された。個人店も効率化を考えないと生き残れない」(日本料理店)、「宴会・会議の受注は好調、展示会は減少。宿泊は受験生の予約が多い」(ホテル)との声が寄せられた。

◎暖冬

「季節対応が早くなっている」(造園)、「前年比104%で暖冬だが好調」(飲料製造)、「果実は単価高、野菜は入荷前年並み単価安」(食料卸売)、「コート売れ残る」(学生衣料小売)、「冬物商品が売れず収支回復を遅らせている」(ガソリンスタンド)、「LPガスの販売量が減少。仕入は高値安定」(燃料小売)、「冬物には暖かく、春物には寒い陽気」(各種小売)との声が寄せられている。

◎大型店出店

「3/12オープンのおおたかの森SCの影響が懸念」(各種小売)、「おおたかの森SCのオープンは青果物の流通変化に合わせて情報を多く収集し、今後の対応に結び付けたい」(食料卸売)とのおおたかの森SCオープンに関する声が寄せられた。また、「大型店、チェーンの飲食店・居酒屋が繁盛するほど、地元の商店や店が衰退」(食料卸売)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲14.8	▲26.6	△5.5	▲14.8	▲28.5
10月	▲7.1	▲20.0	△13.3	▲7.4	▲15.3
11月	▲12.3	▲26.6	△17.6	▲24.1	▲8.3
12月	▲14.6	▲37.5	△16.6	▲20.6	▲16.6
1月	▲15.2	▲15.3	▲22.2	▲13.7	▲8.3
2月	▲25.7	▲20.0	▲22.2	▲38.4	▲9.0
見通し	▲17.1	▲20.0	▲5.5	▲30.7	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.0	▲ 8.5	▲ 17.1	▲ 17.1	▲ 34.2	▲ 30.0	△ 15.7	△ 17.1
建設	▲ 20.0	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 40.0	▲ 53.3	▲ 46.6	△ 6.6	±0.0
製造	△ 5.5	△ 22.2	±0.0	▲ 5.5	▲ 44.4	▲ 27.7	△ 22.2	△ 22.2
卸・小売	▲ 15.3	▲ 19.2	▲ 23.0	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 23.0	△ 7.6	△ 11.5
サービス	▲ 9.0	▲ 9.0	▲ 18.1	±0.0	▲ 27.2	▲ 27.2	△ 36.3	△ 45.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.7	▲ 17.1	▲ 5.7	▲ 7.1
建設	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 13.3	±0.0
製造	▲ 22.2	▲ 5.5	±0.0	▲ 5.5
卸・小売	▲ 38.4	▲ 30.7	▲ 15.3	▲ 11.5
サービス	▲ 9.0	±0.0	▲ 18.1	▲ 9.0

【平成19年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.7(前月水準▲15.2)となり、マイナスが▲10.5ポイント拡大した。

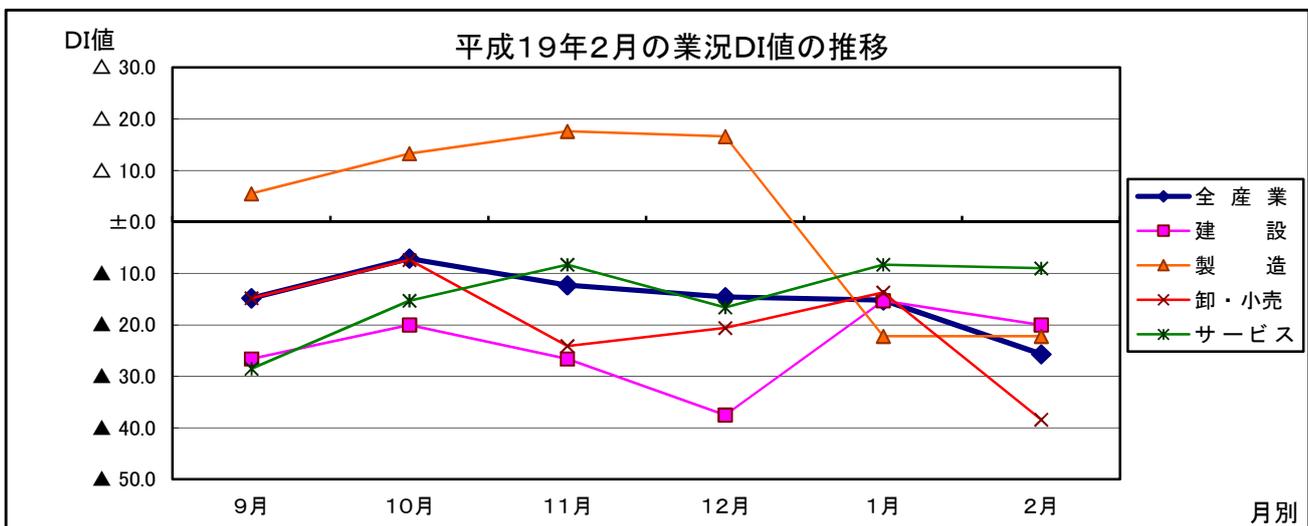
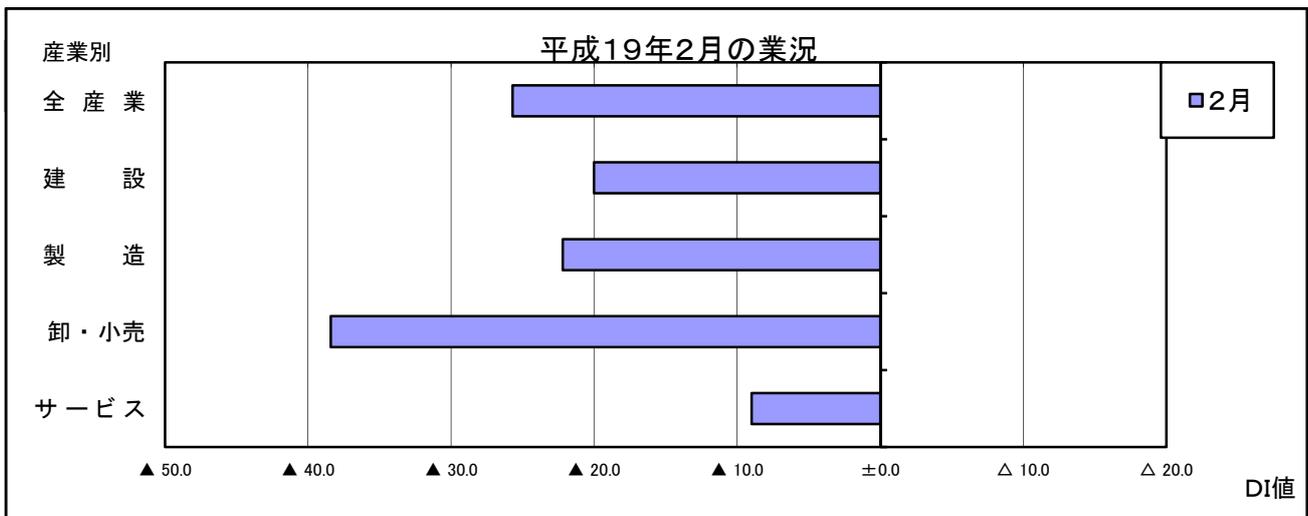
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲22.2(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.4(同▲13.7)、建設業▲20.0(同▲15.3)、サービス業▲9.0(同▲8.3)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲24.7ポイントと大幅に拡大した。横這いの製造業以外の全業種で悪化した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が▲14.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.5(同△16.6)であり、▲22.1ポイントと大幅に悪化する見通しである。変わらない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.7(同▲10.3)、建設業▲20.0(同▲15.3)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲20.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。横這いのサービス業以外の全業種で悪化する見通しである。

平成19年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲14.8	▲7.1	▲12.3	▲14.6	▲15.2	▲25.7	▲17.1(▲2.7)
建設	▲26.6	▲20.0	▲26.6	▲37.5	▲15.3	▲20.0	▲20.0(▲15.3)
製造	△5.5	△13.3	△17.6	△16.6	▲22.2	▲22.2	▲5.5(△16.6)
卸・小売	▲14.8	▲7.4	▲24.1	▲20.6	▲13.7	▲38.4	▲30.7(▲10.3)
サービス	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲16.6	▲8.3	▲9.0	±0.0(±0.0)



【平成19年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が▲7.3ポイント拡大した。

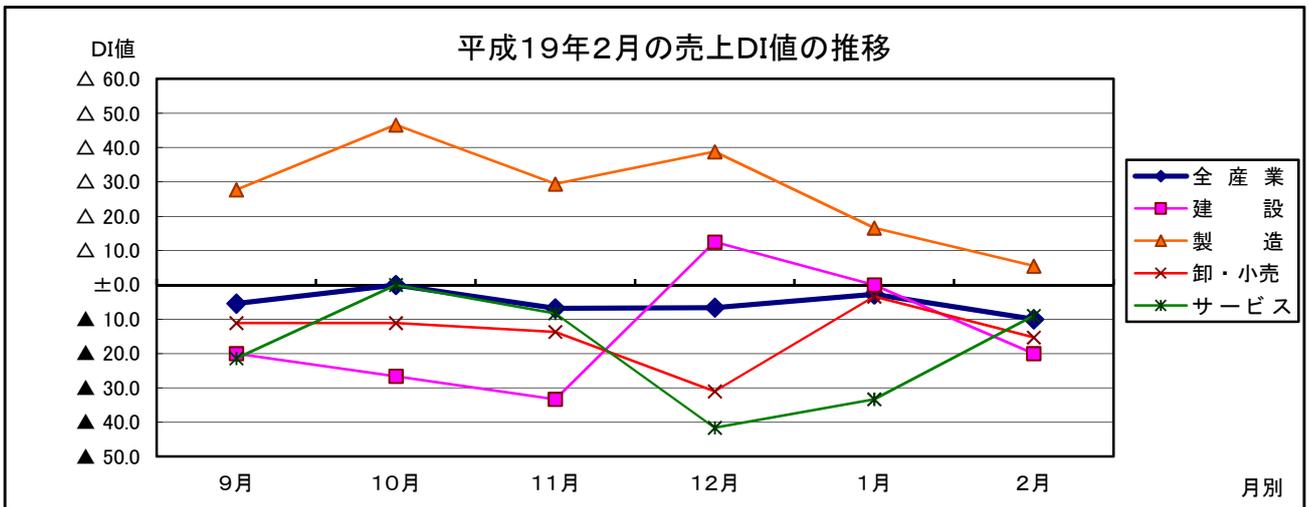
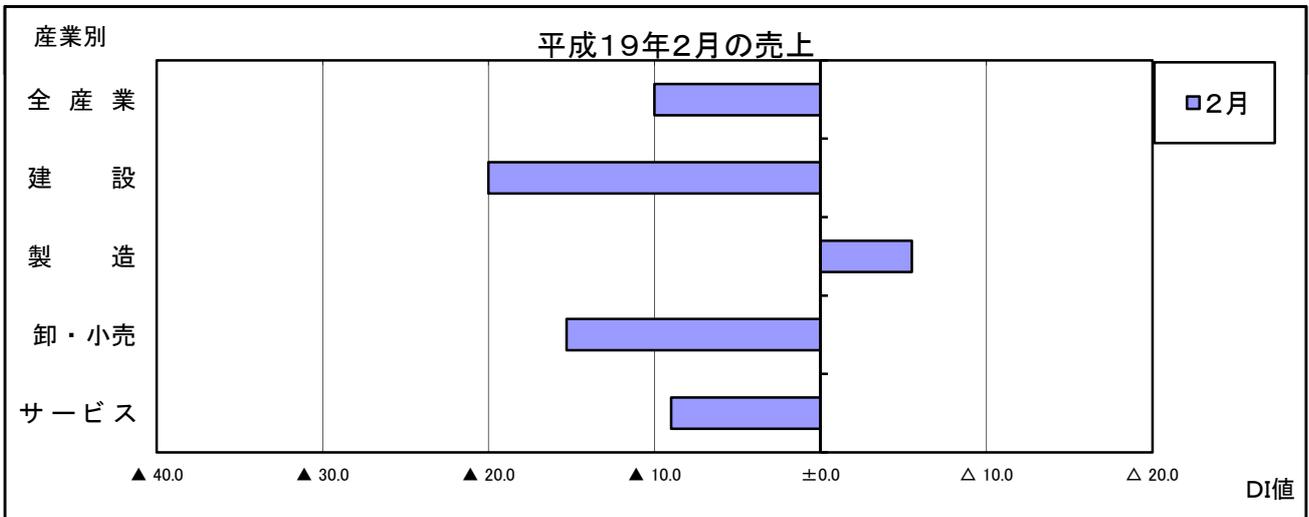
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.5(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲9.0(同▲33.3)であり、マイナス幅が△24.3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同±0.0)、卸小売業▲15.3(同▲3.4)である。特に、建設業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準△2.7)となり、マイナス幅が▲11.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△22.2(同△27.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲26.6(同△7.6)であり、▲34.2ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.0(同±0.0)、卸小売業▲19.2(同▲13.7)である。全産業で悪化する見通しである。

平成19年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲5.4	±0.0	▲6.8	▲6.6	▲2.7	▲10.0	▲8.5(△2.7)
建設	▲20.0	▲26.6	▲33.3	△12.5	±0.0	▲20.0	▲26.6(△7.6)
製造	△27.7	△46.6	△29.4	△38.8	△16.6	△5.5	△22.2(△27.7)
卸・小売	▲11.1	▲11.1	▲13.7	▲31.0	▲3.4	▲15.3	▲19.2(▲13.7)
サービス	▲21.4	±0.0	▲8.3	▲41.6	▲33.3	▲9.0	▲9.0(±0.0)



【平成19年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.1(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大した。

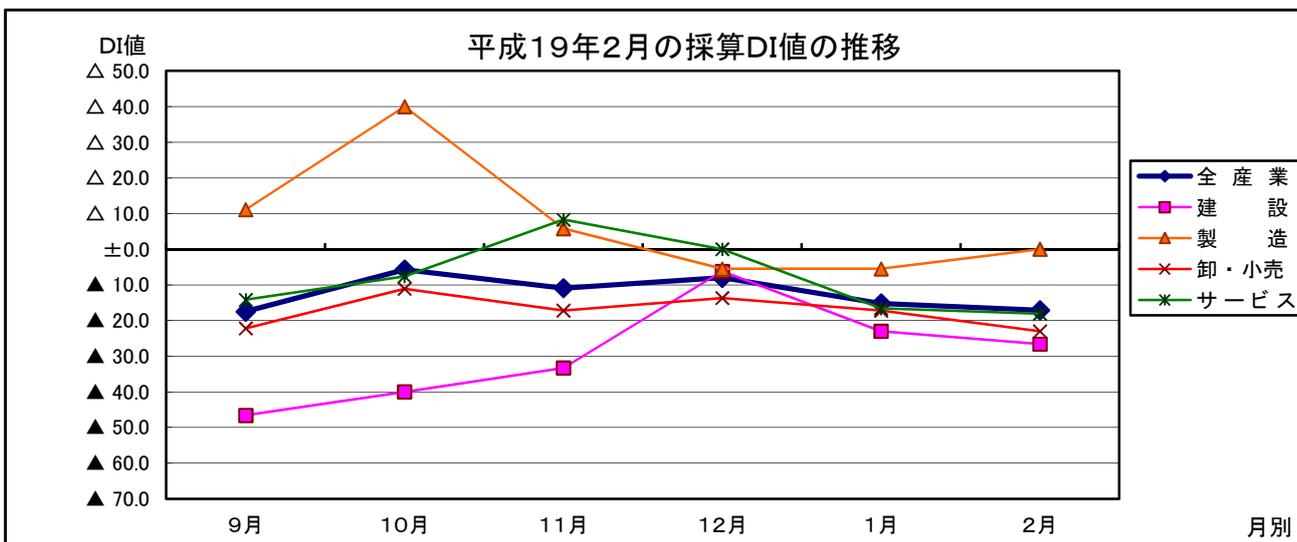
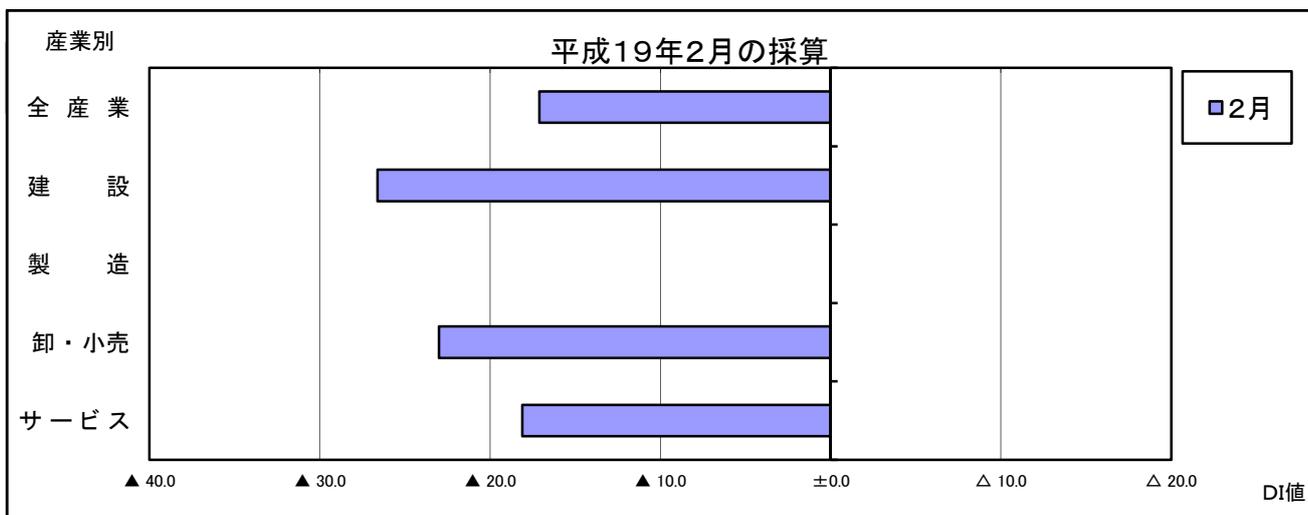
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.0(同▲17.2)、建設業▲26.6(同▲23.0)、サービス業▲18.1(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が▲10.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.5(同△11.1)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲23.0)、卸小売業▲19.2(同▲13.7)である。横這いのサービス業以外の全業種で悪化する見通しである。

平成19年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲17.5	▲5.7	▲10.9	▲8.0	▲15.2	▲17.1	▲17.1(▲6.9)
建設	▲46.6	▲40.0	▲33.3	▲6.2	▲23.0	▲26.6	▲40.0(▲23.0)
製造	△11.1	△40.0	△5.8	▲5.5	▲5.5	±0.0	▲5.5(△11.1)
卸・小売	▲22.2	▲11.1	▲17.2	▲13.7	▲17.2	▲23.0	▲19.2(▲13.7)
サービス	▲14.2	▲7.6	△8.3	±0.0	▲16.6	▲18.1	±0.0(±0.0)



【平成19年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.2(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が△10.2ポイント縮小した。

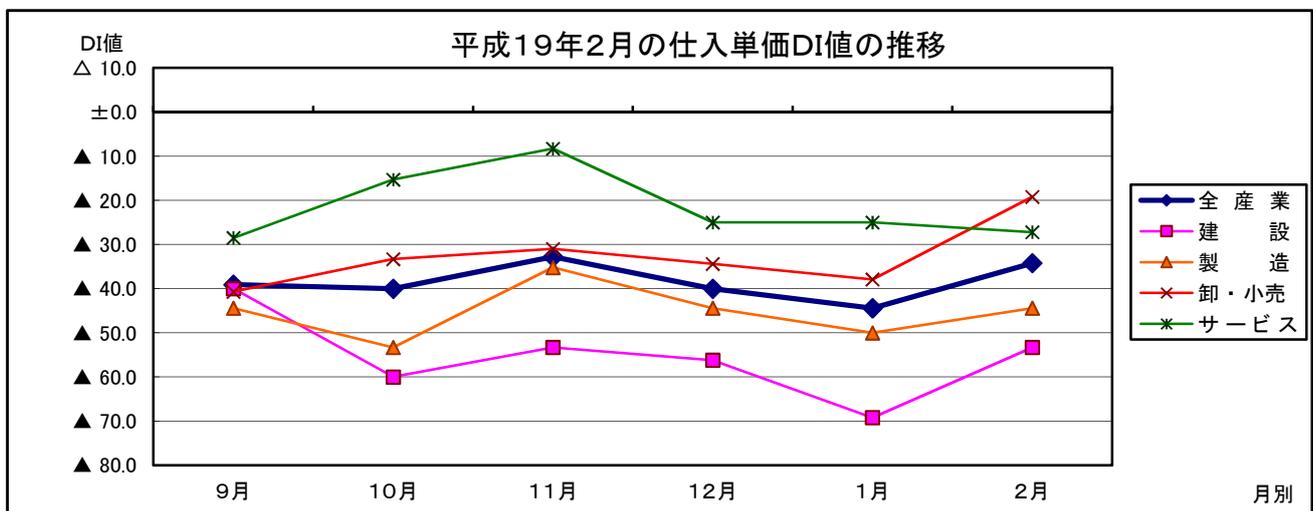
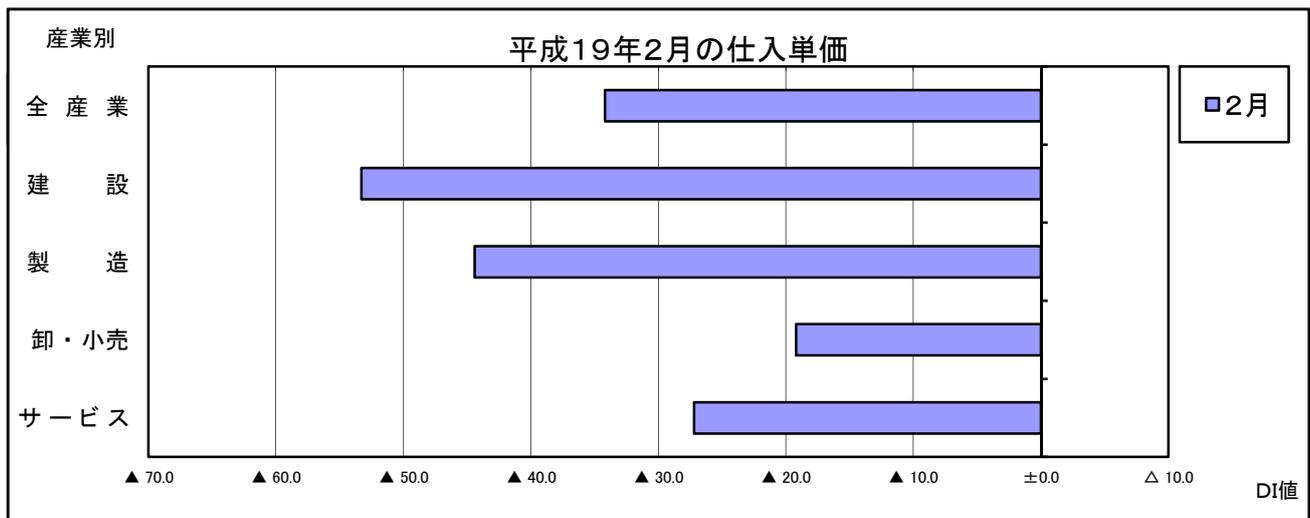
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.2(同▲37.9)、建設業▲53.3(同▲69.2)、製造業▲44.4(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲27.2(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.0(前月水準▲36.1)となり、マイナス幅が△6.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.0(同▲34.4)、建設業▲46.6(同▲53.8)、製造業▲27.7(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲27.2(同▲25.0)である。

平成19年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲39.1	▲40.0	▲32.8	▲40.0	▲44.4	▲34.2	▲30.0(▲36.1)
建設	▲40.0	▲60.0	▲53.3	▲56.2	▲69.2	▲53.3	▲46.6(▲53.8)
製造	▲44.4	▲53.3	▲35.2	▲44.4	▲50.0	▲44.4	▲27.7(▲33.3)
卸・小売	▲40.7	▲33.3	▲31.0	▲34.4	▲37.9	▲19.2	▲23.0(▲34.4)
サービス	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲25.0	▲25.0	▲27.2	▲27.2(▲25.0)



【平成19年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△18.0)となり、プラス幅が▲2.3ポイント縮小した。

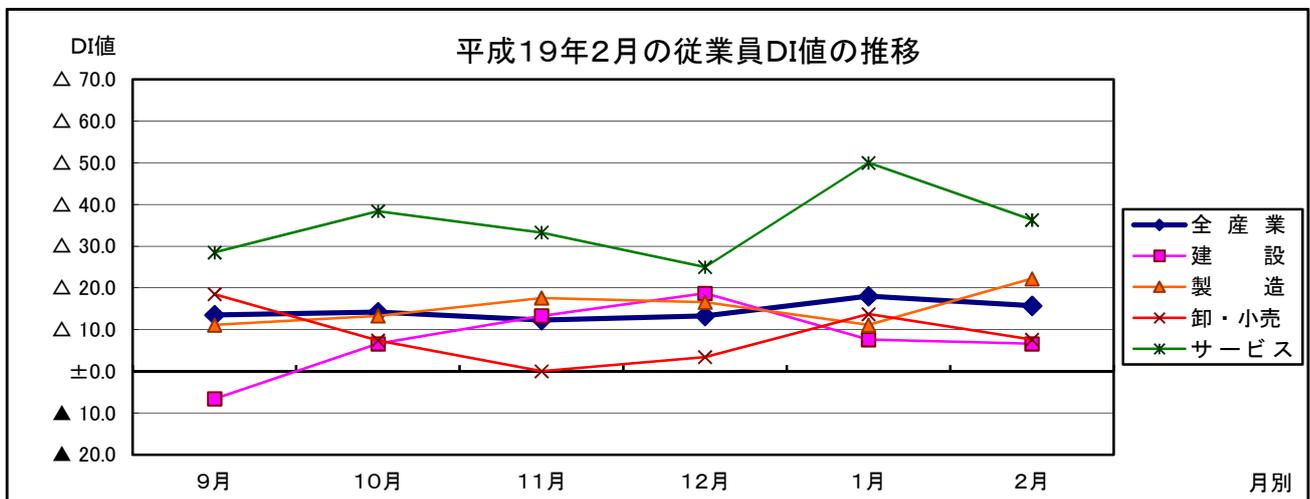
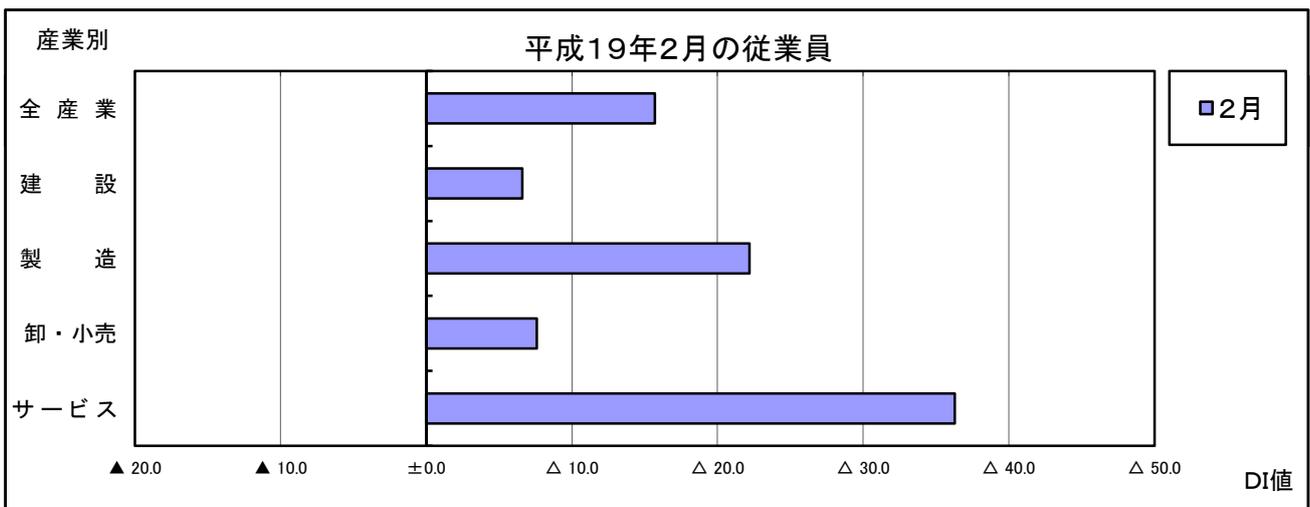
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△22.2(同△11.1)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△36.3(同△50.0)、卸小売業△7.6(同△13.7)、建設業△6.6(同△7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.1(前月水準△18.0)となり、プラス幅が▲0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、製造業△22.2(同△11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同△7.6)、サービス業△45.4(同△50.0)、卸小売業△11.5(同△13.7)である。

平成19年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△13.5	△14.2	△12.3	△13.3	△18.0	△15.7	△17.1(△18.0)
建設	▲6.6	△6.6	△13.3	△18.7	△7.6	△6.6	±0.0(△7.6)
製造	△11.1	△13.3	△17.6	△16.6	△11.1	△22.2	△22.2(△11.1)
卸・小売	△18.5	△7.4	±0.0	△3.4	△13.7	△7.6	△11.5(△13.7)
サービス	△28.5	△38.4	△33.3	△25.0	△50.0	△36.3	△45.4(△50.0)



【平成19年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準△1.3)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

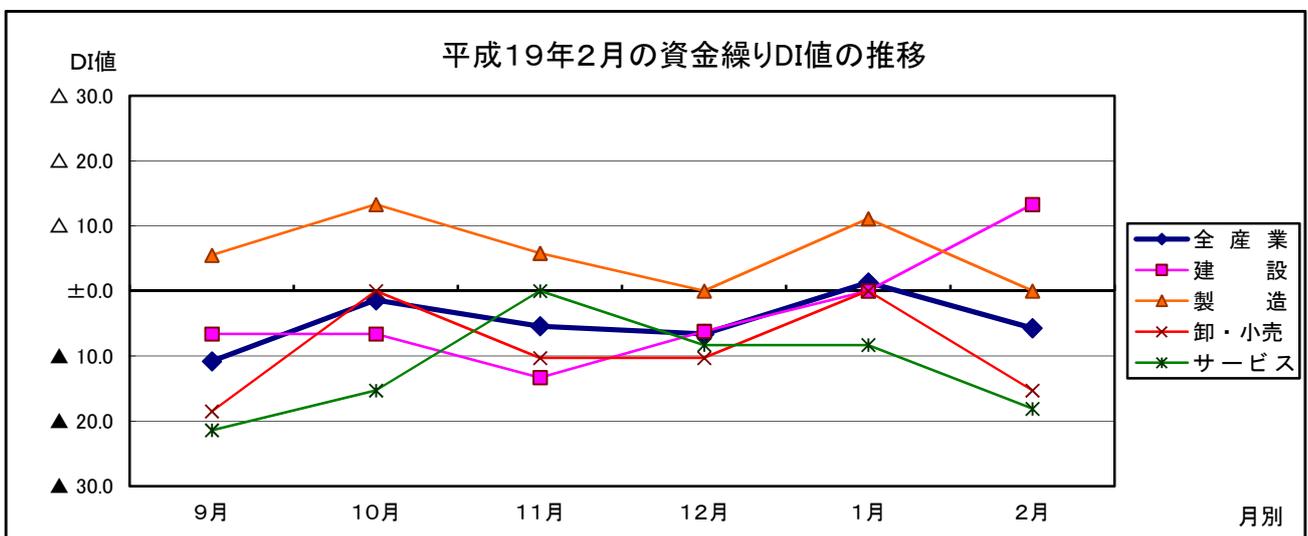
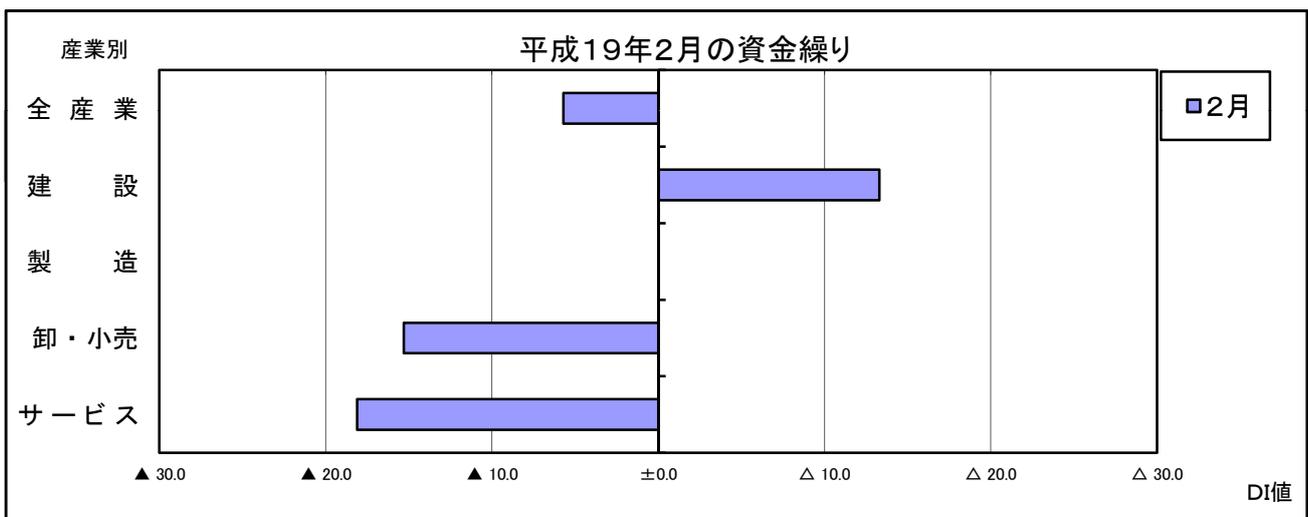
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△13.3(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.3(同±0.0)、サービス業▲18.1(同▲8.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲5.5)となり、マイナス幅が▲1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲15.3)、サービス業▲9.0(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲11.5(同±0.0)、製造業▲5.5(同±0.0)である。

平成19年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲10.8	▲1.4	▲5.4	▲6.6	△1.3	▲5.7	▲7.1(▲5.5)
建設	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲6.2	±0.0	△13.3	±0.0(▲15.3)
製造	△5.5	△13.3	△5.8	±0.0	△11.1	±0.0	▲5.5(±0.0)
卸・小売	▲18.5	±0.0	▲10.3	▲10.3	±0.0	▲15.3	▲11.5(±0.0)
サービス	▲21.4	▲15.3	±0.0	▲8.3	▲8.3	▲18.1	▲9.0(▲16.6)



【平成19年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	柏市内は建設の宝庫かも。多種多様の建設会社が参入。発注件数は多い。予算と仕入単価のバランスが悪く利益率の低下に繋がる。	・発注件数増加 ・仕入単価上昇 ・利益低下	一般土木建築工事業
	年度末完了工事後の受注が今ひとつ伸び悩んでいる。	・受注件数伸び悩み	一般土木建築工事業
	特に変化なし。	・変化なし	一般土木建築工事業
	例年より今年は暖かいので、造園業界では季節対応が早くなってきている。年度明けから仕事受注が少なく、業況は悪化するのでは…？この時期ではどの会社も人員確保をしなければならないが、年度明けは過剰となる。	・暖冬 ・季節対応 ・受注件数減少 ・人手過剰	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
製造	業界は前年比104%で、暖冬ではあるものの好調な出足となった見込み。	・売上増加 ・暖冬	清涼飲料製造業
	原油価格が落ち着いてきたので原材料価格の下げに期待している。	・原油下落	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	売上は減少にあり、ユーザーの在庫調整が厳しくなっている。	・売上減少 ・在庫調整	その他の鉄鋼業
	レンタルハウスは好調を維持。	・レンタル好調	建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金属を含む)
卸・小売	海外売りは2ケタ伸びているが、国内は減少しており先行き不透明である。	・海外売上増加 ・国内売上減少	電子部品・デバイス製造業
	柏市市場担当という事なのであくまでも市場内の狭い範囲での報告です。柏市が発展して大型店が林立し、チェーンの飲食店・居酒屋が繁盛するほど、地元の商店や店が衰退しております。そういった顧客を相手に商売をする柏市場も苦戦をしております。商工会議所も例外ではないと思います。	・大型店増加 ・チェーン店増加 ・地元商店衰退 ・卸売市場苦戦	食料・飲料卸売業
	衣料が不振。順調だった食品に陰りが見え、昨割れ状況。住居関連のみ昨比クリア。好調のゲーム機にも勢いはなくなりつつあるため、今後非常に厳しくなることが予想される。3/12オープンのおおたかの森SCの影響が懸念されます。	・衣料不振 ・食品に陰り ・住居横這い ・おおたかの森SC	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	前月同様に、果実は単価高の動き、野菜は入荷量前年並みだが、単価について安値の推移をしています。これは暖冬の影響で前倒しと思われま。今後もしばらくこのまま続くことが予想され、厳しい状況です。また、ららぽーと柏の葉がオープンし、期待を見込んでいますが、おおたかの森SCのオープンや青果物の流通変化に合わせて消費者の動きに対応すべく、情報を多く収集し、今後の対応に結び付けたい。	・果実単価高 ・野菜単価安 ・暖冬 ・ららぽーと柏の葉 ・おおたかの森SC	食料・飲料卸売業
	事務・文具・学用品：卒園・卒業記念品、町会、子ども会行事等で好調。暖冬でコート売れ残る。その他入学用品は好調。人材が不足している。	・卒業商品好調 ・暖冬 ・冬物商品不調 ・人材不足	その他の飲食料品小売業
	暖冬で冬物商品の売れ行きが悪く、S.Sの収支回復を遅らせている。冬物商品：灯油、バッテリー、スタッドレスタイヤ	・暖冬 ・冬物商品不調	ガソリンスタンド

【平成19年2月の業種別業界内トピックス】

	暖冬でガスの販売量が減少。仕入は高値でも安定しただけよし。昨年からCO中毒が多発。真摯に取り組んでも周りが足を引っ張っている最近だ。	<ul style="list-style-type: none"> ・暖冬 ・売上減少 ・仕入高値安定 ・CO中毒事故多発 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	緩やかな金利利上げによる需給バランス(特に各業界供給面)の調整、及び個人の利子収入の回復に伴う消費刺激効果を期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・金利上昇 	書籍・文房具小売業
	4月末でステーションモールの売場が移転予定。2週間程度の休みとなる。その後5～7月と3ヶ月程ステーションモール8Fの奥の方の売場で苦戦となる。8月には8Fの売場全体がオープン予定。3ヶ月間どうしよう。		書籍・文房具小売業
	冬物には暖かく、春物には寒い陽気が続いているが、軽衣料を中心とした春物商品、新入学、新社会人の需要に期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・冬物商戦 ・春物商戦 ・暖冬 ・新学期需要 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	2月度は月初から売上・入店客数ともに低調な推移となった。中旬のバレンタイン商戦でも大きな盛り上がりは見られず、後半に掛けても低調な推移となっている。婦人服はカジュアル商材を扱う店舗の不振が目立ち、雑貨業種では「ららぽーと柏の葉」にも出店した大型店舗の不振が顕著である。また、レストラン街は東急ハンズ導入に向け、リニューアル休業中の店舗が多数あるため売上が低迷した。2月度は昨年より営業日数が1日増、土曜日1日増のプラス要因があるものの、現状前年を下回る推移となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・売上減少 ・客数減少 ・バレンタイン商戦 ・カジュアル衣料不振 ・リニューアル 	各種商品小売業
サービス	1・2月は新年会なのか、大人数のお客様が多く、忙しかったように思えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・客数増加 	食堂・レストラン
	大規模、小規模飲食店が減り、中規模飲食店が増えて効率化された飲食店が増えているように思います。個人店も効率化を考えないと生き残れないと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・大・小規模飲食店減少 ・中規模飲食店増加 ・個人店の効率化 	食堂・レストラン
	宴会:宴会・会議の受注については好調だが、展示会については減少。宿泊:受験生の予約が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・宴会・会議好調 ・展示会減少 ・宿泊好調 	ホテル

【平成19年2月の多い景気キーワード】

◎暖冬

- ・ 例年より今年は暖かいので、造園業界では季節対応が早くなってきている。 (建設業)
- ・ 業界は前年比104%で、暖冬ではあるものの好調な出足となった見込み。 (製造業)
- ・ 前月同様に、果実は単価高の動き、野菜は入荷量前年並みだが、単価について安値の推移をしています。これは暖冬の影響で前倒しと思われます。今後もしばらくこのまま続くことが予想され、厳しい状況です。 (卸小売業)
- ・ 事務・文具・学用品:卒園・卒業記念品、町会、子ども会行事等で好調。暖冬でコート売れ残る。その他入学用品は好調。人材が不足している。 (卸小売業)
- ・ 暖冬で冬物商品の売れ行きが悪く、S.Sの収支回復を遅らせている。冬物商品:灯油、バッテリー、スタッドレスタイヤ (卸小売業)
- ・ 暖冬でガスの販売量が減少。仕入は高値でも安定しただけよし。昨年からCO中毒が多発。真摯に取り組んでいても周りが足を引っ張っている最近だ。 (卸小売業)
- ・ 冬物には暖かく、春物には寒い陽気が続いているが、軽衣料を中心とした春物商品、新入学、新社会人の需要に期待したい。 (卸小売業)

◎大型店出店

- ・ 3/12オープンのおおたかの森SCの影響が懸念されます。 (卸小売業)
- ・ ららぽーと柏の葉がオープンし、期待を見込んでいますが、おおたかの森SCのオープンや青果物の流通変化に合わせて消費者の動きに対応すべく、情報を多く収集し、今後の対応に結び付けたい。 (卸小売業)
- ・ 柏市が発展して大型店が林立し、チェーンの飲食店・居酒屋が繁盛するほど、地元の商店や店が衰退しております。そういった顧客を相手に商売をする柏市場も苦戦をしております。 (卸小売業)

平成19年2月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.7に対し、「CCI-LOBO」が▲27.8で、マイナス幅が2.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲19.7で、マイナス幅が9.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.1に対し、「CCI-LOBO」が▲25.4で、マイナス幅が8.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.0で、マイナス幅が13.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が△0.6で、プラス幅が15.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲19.6で、マイナス幅が13.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。

平成19年2月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.7	 20.0	 22.2	 38.4	 9.0
CCI LOBO	 27.8	 41.5	 14.3	 30.0	 27.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.0	 20.0	 5.5	 15.3	 9.0
CCI LOBO	 19.7	 30.0	 0.5	 26.0	 20.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.1	 26.6	 ±0.0	 23.0	 18.1
CCI LOBO	 25.4	 36.2	 16.0	 25.4	 25.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.2	 53.3	 44.4	 19.2	 27.2
CCI LOBO	 21.0	 34.1	 34.8	 6.9	 15.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 6.6	 22.2	 7.6	 36.3
CCI LOBO	 0.6	 14.7	 3.6	 5.9	 3.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.7	 13.3	 ±0.0	 15.3	 18.1
CCI LOBO	 19.5	 29.6	 11.1	 21.5	 19.6

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成19年2月19日～23日
 調査対象：全国の407商工会議所が2588業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DIは三カ月ぶりに改善するも、基調は横ばい

一月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同し()は、前月水準よりマイナ幅が○、ポイント縮小して、二七八となり、三カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

【建設業】では、「増改築工事の受注件数が増加傾向にある」「(建築工事)との声がある一方、公共事業縮小による競争激化、仕入コスト上昇と価格転嫁難、金利負担の増大などの問題を抱えている。今後、公共工事、民間工事ともに心細い」「(建築工事)」「公共工事の縮小で先行きが不透明であるとともに、今冬は小雪による除雪作業激減の影響を受けている」「(一般工事)との声も寄せられている。

【製造業】では、「仕入コスト上昇分の販売価格への転嫁で採算が好転しており、業況悪化も底が見え始めた」「他の輸送用機器製造」は、「業況は好調を維持しており、顧客の設備投資意欲は引き続き旺盛である」「(通信機器器具製造)との声があるものの、「設備投資に積極的な声がある一方、借入金利が上昇した場合の経営圧迫を懸念する声も聞かれている」「(金属加工機械製造)」「原材料の仕入コストは高止まりのまま推移している」とも、暖冬の

影響で冬物衣料品用製品の出荷は低迷を続けている」「(ニット生地製造)」「借入金利引き上げへの懸念や暖冬の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「先行きは油断できないものの、売上が増加傾向を示しており、景気が好転すれば非常に喜ばしい」「(農畜産物卸売)との声がある一方、「暖冬の影響を受け、日用品雑貨や繊維関係の冬物商品の売上が例年に比べて低調であった」「(衣服・日用品卸売)」「今後、金利引き上げが景気にもどのような影響を及ぼすかが気になる」「(各種商品卸売)と暖冬の影響や借入金利引き上げへの懸念を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「今冬は暖冬で春物商品の売上が好調な滑り出しを見せている」「(百貨店)と、暖冬の好影響を挙げるコメントが寄せられている一方で、「暖冬の影響もあり冬物商品の売上が減少したとともに、輸入商品を扱う小売店は一口高により商品の仕入に消極的にならざるをえなくなっている」「(商店街)と、暖冬による冬物商品の売上低迷と為替の影響を訴える声のほか、「企業の好況が個人消費の回復や物価の上昇に結びついていないとの意見が多い」「(百貨店)との声も寄せられている。

【サービス業】では、「暖冬の影響で個人客の予約が好調であるのに加え、ビジネス客のネ

ット予約も伸びている」「(旅館)との声がある一方で、「暖冬の影響で秋物のクリーニング依頼が例年に比べて少なく売上が減少している」「(洗濯)と、暖冬の好影響と悪影響の両方を示すコメントが寄せられている。また、「業況は好転しておらず、廃業件数は依然増加している」「(食堂・レストラン)との声も寄せられている。

一月のキーワード

景況一進一退

ヒアリング先からは、業況好調、受注増加、先行き期待という声も寄せられている。「一部の事業所では受注量の増加や従業員採用など前向きな動きが見られる」「(金属加工機械製造)」「これから春にかけて、卒業・入学のお祝いなど春特有の需要に期待したい」「(他)の一般飲食店)とのコメントが寄せられている。一方、「公共事業の縮小により先行き不透明感が強く、特に中小零細事業者に対する影響は大きい」「(一般工事)」「古紙やパルプなど原材料の仕入コストが上昇しているが、その分を販売価格に転嫁できず、厳しい状態が続いている」「(紙製造)」「顧客である一般酒販店や飲食店の業況は冷え込んでおり、卸売業者の売上も低迷している」「(食料・飲料卸売)と、公共工事の縮小や売上低迷など業況低迷、仕入コスト上昇による採算悪化を訴えるコメントも寄せられている。

暖冬の影響

また、暖冬の悪影響による業況低迷を訴える声も寄せられている。一方、来店者数増加など暖冬の好影響を挙げる声も聞かれている。建設、卸売、小売からは、「暖冬の影響による降雪量の減少により除雪作業が皆無で資金繰りに悪影響が出ている」「(一般工事)」「暖冬の影響で鍋料理に利用する食材の売れ行きが悪い」「(農畜産物卸売)」「暖冬により冬物商品の売れ行きが低迷しているとともに、春物の商品を売り出そうにも冬物商品の在庫が残っているところは仕入れることすら難しい」「(百貨店)との声も寄せられている。一方で、小売、サービスからは、「暖冬により降雪量が少なく、来店者数が増加している」「(百貨店)」「今年は昨年と比較して良い天気が続く観光客の来館も多く、業況は若干ではあるが好転している」「(旅館)」「トラックの燃料である軽油価格が下落傾向にあるとともに、暖冬の影響で飲料製品の荷動きが好調(その他サービス)といったコメントも寄せられている。

借入金利引き上げ懸念
 一方、借入金利引き上げへの懸念を訴える声も聞かれている。建設、製造からは、「エネルギーコストの低減分が借入金利負担の増加で相殺されてしまうことを懸念している」「(織物)」「借入金利が引き上

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
10月	25.2	38.1	13.4	34.4	23.1	28.1
11月	24.5	39.6	11.3	36.6	22.8	25.7
12月	25.2	34.4	15.2	31.3	25.6	27.0
1月	28.0	40.4	18.1	31.9	28.7	28.1
2月	27.8	41.5	14.3	35.8	30.0	27.2
見通し	20.0	37.2	13.9	25.0	19.0	14.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

げられた場合、企業の設備投資が減少する恐れがある」「(金属加工機械製造)」「金利水準は経営に影響を与えるため、今後の金利の動向が気かりである」「(一般産業用機械製造)との声も寄せられている。また、卸売、小売からは、「資金繰りを考える上で、金利上昇への動きに対する警戒感が強い」「(農畜産物卸売)」「今のところ悪影響を受けているわけではないが、金利動向は今後注目すべきポイントと感じている」「(農畜産物卸売)」「次回の日銀による金利引き上げ決定がいつ行われるかに注目している」「(百貨店)といったコメントも寄せられている。